

小学校第6学年社会科学習指導案

日時：平成23年10月〇日（〇）

場所：八代市立有佐小学校 第6学年教室

授業者：教諭 近松 茂 治

1 単元名 「戦争と人々の暮らし」

2 単元について

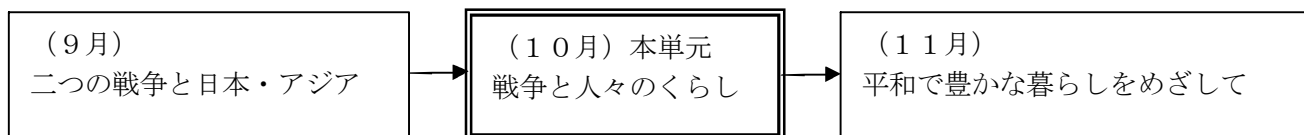
(1) 単元のねらい

学習指導要領第6学年の内容（1）ケには、「日華事変、我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催について調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かる」と示されている。それを受けて、本単元は、アジア・太平洋に広がった戦争について調べることを通し、我が国がどのようにして戦時体制に移行したかということや、戦争によって日本国民が大きな被害を受けただけでなく、我が国が中国をはじめとする諸国に大きな被害を与えたことを理解させることをねらいとしている。

現在の我々は、日常的に戦争や紛争、テロなどの平和を脅かすニュースを様々なメディアを通して見聞きしており、児童もそのような世界情勢に関する情報に触れている。しかし、実感をもって「平和」の意味を考える機会は少ないのが現実ではないかと思われる。

そしてまた、戦後、民主的な国家として出発していくこととなる背景となった事柄について具体的に調べ、その歴史的意味を考えることは、現在の国際社会での日本の置かれた位置を見直す視点を与えることにもなり、平和で民主的な国家、社会の進展に一層努力していこうとする態度の育成にもつながるものであると考える。

(2) 系統について



(3) 児童の実態について（在籍数33名）

※2学期始めに実態調査予定

(4) 指導にあたって

- ア 言語活動を充実させる視点から、調べてわかったことや疑問点をカードにまとめさせ、整理し、学習のまとめにつなげるようにする。
- イ 写真や文章だけでなく、映像資料も準備し、児童の興味・関心が高まるようにする。
- ウ 具体的な聞き取りが可能な場面では、家庭に協力をお願いして聞き取りをさせたり、地域の方をゲストティーチャーとして活用する場面を設けたりする。
- エ 資料から調べて分かったことや考えたことを発表させる場面を設け、根拠や解釈を示しながら表現することができるようにする。

(5) 情報モラル教育の視点から

- ア 本単元は情報モラル教育のモデルカリキュラム「3安全への知恵 e 3-1 情報の正確さを判断する方法を知る。」との関連を重視して展開する。
- イ 戦争によって国民の生活がどう変化していったかを考えさせる際の資料の一つとして、誤った情報を掲載した戦争中の新聞記事を提示することで児童の関心が高まるようにする。
- ウ 戦時中の新聞は、大本営発表に基づいていたため事実と一致しないことが多く、情報統制の恐ろしさ、愚かさを児童に理解させるとともに、受け取った情報だけを信じて判断せず、別の方法で確かめることの大切さを気付かせるようにする。

(6) 人権教育の視点から

それぞれの考えの違いの中から、お互いの考えを深めていくことができることをしっかりと伝え、学級の支持的な雰囲気大切にしていく。

3 単元の目標

アジア・太平洋に広がって行われた戦争について調べ、戦争拡大の経緯や国民生活の様子、国内外の被害などについて理解を深めさせる。

4 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識理解
①戦争の経緯や国民生活の様子、国内外の被害について関心を持ち、意欲的に調べ、考えようとしている。	①戦争の経緯や国民の様子、国内外の被害について学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ②戦争の経緯や国民の様子、国内外の被害について調べたことを、比較したり関連づけたり総合したりして、歴史的事象の意味を考え表現している。	①写真や年表、その他の資料を活用して、戦争の経緯や国民の様子、国内外の被害を調べるために必要な情報を集め、読み取っている。	①戦争の経緯や国民の様子、国内外の被害についてわかっている。

5 単元の指導計画（7時間）

時	学習活動	指導上の留意事項	関	思	技	知	評価基準及び評価方法
1	1 中国との戦争が始まる 日本と中国との戦争がどのように始まり、展開していったかを調べながら、国内外の動きや人々の暮らしの変化について学習課題を設定する。	学習課題を設定する際は、自分の予想を書かせるようにし、単元全体の見通しをもたせるようにする。		○			思考・判断・表現① (ノート) 戦争による国内外の動きや人々の暮らしの変化について、学習問題や予想を考え、表現している。
2	2 アジア・太平洋に広がる戦争 中国との戦争が、その後どのようにアジア・太平洋の各地へ広がっていったのか、その経緯や背景、影響について調べ整理する。	カードに整理させる際は、調べたことと考えたことを区別してカードを記入させるようにする。			○		技能① (カード) 資料を活用して、日中戦争の広がりについて情報を集めて読み取り、カードに整理している。
3 本時	3 戦争と国民生活の変化 戦争中の人々の暮らしの様子を調べ、戦争によって社会や暮らしがどのように変化したかについて、考えを深める。	情報統制下の新聞記事を提示し、児童が当時の人々の暮らしに関心をもつようにする。		○			思考・判断・表現② (ノート) 情報統制の目的を、人々の暮らしが苦しくなっていったことと関連させて考え、説明している。
4	4 子ども達と戦争 戦争中の子どもたちの暮らしの様子を調べ、子どもと戦争の関係について考えを深める。	自分たちの日常生活と比較しながら、当時の子どもたちの気持ちを考えさせるようにする。		○			思考・判断・表現② (ノート) 戦争が子どもたちの暮らしに与えた影響について考え、わかりやすく説明している。
5	5 おそいかかる空襲 空襲の広がりや、それを今に伝える各地の遺跡を調べ、戦争によって国民が受けた被害の大きさを理解する。	聞き取りの可能な児童には、空襲の経験のある方に事前に聞き取りをさせ全体に紹介させる。				○	知識・理解① (カード) 空襲によって国民が受けた被害の大きさについてカードに記入している。
6	6 沖縄・広島・長崎、そして敗戦 沖縄戦や広島・長崎への原爆投下、敗戦にいたる経緯について調べ、戦争で人々が受けた被害の大きさを理解する。	戦争による被害を調べる際は、アジアの国々に与えた被害も押さえる。				○	知識・理解② (カード) 沖縄戦や原爆の被害、敗戦にいたる経緯についてカードに記入している。
7	7 学習をまとめよう 学習シートを使って学習内容を振り返り、書きためたカードを整理して、感想をまとめる。	学習シートを工夫し、単元の学習がまとめられるようにする。	○				関心・意欲・態度① (学習シート) 学習したことをもとに、日本の戦争について考え、学習シートにまとめている。

6 本時の学習 (3 / 7 時間)

(1) 本時の目標

戦争が長引く中での国民の暮らしを調べ、国民の暮らしがどう変化していったかを考えることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 ○主な発問 □指示	予想される児童の反応	指導上の留意点・評価	備考
導入	5	1 戦争中の新聞記事と事実を比較し、戦争中は情報統制がなされていたことを知る。	・新聞に嘘の記事があるなんて聞いたことないな。	○当時の新聞は児童には読めない部分が多いので、解説を記入しておく。	戦争中の新聞記事
		大本営の、情報統制の目的はなんだったのだろう。			
展開	15	2 戦争中の国民の暮らしについて調べ、発表する。 ○戦争中の国民生活は、どのように変化していったのだろう。	・色々な物が足りなくなってきた。 ・国民徴兵令で、国民は兵士にならなければならないようになった。 ・戦争に協力させる制度が増えている。	徹底指導 (ポイント) ◎調べる視点を提示し、どの視点から調べるのか、選ばれるようにする。 ・生活必需品の供給 ・戦争に協力させる制度 ・当時つくられた標語 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> ◆思考・判断・表現② (ノート) B基準：情報統制の目的を、人々の暮らしが苦しくなっていたことと関連させて考え、説明している。 </div> A基準：具体的な資料をもとに人々の暮らしが苦しんでいることを根拠にして、情報統制の目的を説明している。 〈B基準に達しない児童への手立て〉 敗戦が続くニュースを聞いたとき、人々はどう考えるかという視点を与える。	ホワイトボード
		3 めあてに対する自分の考えをまとめる。 ○大本営の情報統制の目的は何だったのだろうか。 まとめ方や発表の仕方の例 「大本営の情報統制の目的は、○○だと思います。わけは、△△だからです。」	・苦しい生活の中、国民を戦争に協力させるためには、情報統制が必要だったのではないかな。 ・国民に負けていることを教えると、国民のやる気が無くなってしまっているのではないかな。 ・戦争に勝つためには、国民をコントロールする必要があったのではないだろうか。		
		4 考えを交流する。 □班ごとに意見を交流し、まとめましょう。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 【言語活動】(設定の意図) 互いに意見を発したり、聞いたりする活動により、児童の思考が深まるようにする。 </div>	・そんな考え方もあるのだな。 ・お互いの考えに共通点はないかな。 ・どうしてそう考えたのか、もっと理由を聞いてみたいな。		
整理	5	5 本時の学習を振り返り、まとめをする。 □今日の学習を振り返りましょう。	・新聞さえも戦争に利用するなんて、戦争って怖いな。 ・すべての情報が正しいとは限らないんだな。	○戦争中は、新聞やラジオでさえも戦争に利用されることを押さえ、現在に生きる私達も情報の正確さを判断する力が必要であることを伝える。	

7 モデルカリキュラムの位置づけ

情報モラル	道徳、各教科・特別活動 他
a3: 発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ。	道徳 男女の友情と協力「言葉のおくりもの」 2-(3) 信頼友情「互いに信頼しあって友情を深め、男女相互に理解し、協力する態度を養う。」
b3: 情報に関する自分や他者の権利を尊重する。	道徳 共にいきる「町で出会った車いすの人」 2-(2) 思いやり、親切「生涯を持った人がくらしやすい町をつくっていこうという心情を育てる。」 国語 町のよさを伝えるパンフレットを作ろう「ようこそ、わたしたちの町へ」 必要な材料を集め、効果的な構成や記述のしかたを考えて、パンフレットを作る。 国語 自分の考えを明確に伝えよう『『平和』について考える』 「平和」をめぐる自分の意見が説得力をもつように具体例や資料を集め、意見を明確に伝えるために文章全体の構成の効果を考えることができる。
c3: 情報社会でのルール・マナーを遵守できる。	道徳 規律ある生活「修学旅行の夜」 1-(3) 自由・規律「自由の大切さを理解し、自他の自由を尊重するとともに、規律ある行動をしようとする態度を養う。」
d3: 情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる。	
e3: 情報を正しく安全に利用することに努める。	社会 戦争と人々のくらし アジア・太平洋に広がって行なわれた戦争について調べ、戦争拡大の経緯や国民生活の様子、国内外の被害などについて理解を深めさせる。
f3: 安全や健康を害するような行動を抑制できる。	体育 病気の予防「病気の起こり方」 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関りあって起こることを理解する。
g2: 生活の中で必要となる情報セキュリティの基本を知る。	
h : 情報セキュリティの確保のために、対策・対応がとれる。	
i2: 情報社会の一員として、公共的な意識を持つ。	道徳 よりよい校風「先輩の心を受け継いで」 4-(6) 愛校心「最上級生としての役割を自覚し、学校に愛着を持ち、進んで立派な校風を作ろうとする態度を養う。」